



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年03月28日 第1062号「週刊五十嵐レポート」

果実は人の働きを示す

果実は、その人の働きぶりを示すという。果樹園を経営する農夫がどのような姿勢で果実を育てているかは、収穫期の果実をみるとわかる。美味しい果実ができていれば、農夫が本気で努力した結果である。もし良くなければ、どんなに言い訳しても手を抜いたことになる。

この話を聞いた経営者は、親戚のおじさんの話をした。毎年家庭菜園でクワイを育てていて、いつもいただくのだが、小さくてあまり美味しなかった。しかし、今回は大きくて甘く美味しかった。どうしたの？と聞いてみると、今までは放っておいた。今回はコロナ禍でやることはなく、家庭菜園に精を出した。今まで間引きしていなかったが、今回は間引きをして少なく大きく育てた。

なるほど、果樹園の話と家庭菜園の話は経営にも通じる。美味しくて立派な果実ができていれば、それは農夫が精を出して丹精込めて育てていたことがわかる。経営も毎年1人当たりの経常利益を同業者の2倍、3倍出していれば、その経営者は本気で経営に打ち込んでいたことにつながる。

間引きとは、苗の良好な生育のために、良い苗を残して他を引き抜き、十分な間隔をあける作業のこと。間引きすることで栄養分を分散させず、集中させること。

経営では選択と集中につながる。昨年、資生堂は日用品事業を売却し、低収益事業を整理、強みとする高価格帯の化粧品に注力するという記事があった。今でもそれを続けている。

自然界も経営も原理原則があるようだ。経営は形がなくてつかみどころがない。油断すると思いつきで経営をして価値の低い仕事や根本的に間違ったことを全員で行ったりする。そうすると経営効率が悪くなり、利益がでなくなる。

経営は論理学。経営の全体像と構成する要因を明確にし、利益性を理解する。実行の手順(目的⇒目標⇒戦略⇒戦術)を行う。今まで漠然として経営を行っていた経営者が経営を学んでいくと、頭がすっきりしてやるべきことが見えてくる。継続して行くと経営力が毎年増強していく。人は弱いので、休みがち、手を抜きたい。でもそこを自分の意志でやり抜く。そこに明日はある。

ちょっと
気なる出来事

3月23日付日経新聞、公示地価の記事。

国土交通省が22日発表した2022年1月1日時点の公示地価は全国平均が前年比0.6%上がり、2年ぶりに上昇した。新型コロナウイルス禍から経済が徐々に持ち直していることを映し出した。在宅勤務の広がりなどによる堅調な住宅需要がプラス要因となった。

地価上昇の波が東京都心から周辺に広がっている。2022年の公示地価で東京・埼玉・神奈川の3都県の住宅地はプラスに転じ、千葉県は上昇幅を拡大した。新型コロナウイルス禍でテレワークが増えるなど生活が変化し、郊外でも住宅需要が高まる。人口が増えれば消費が拡大し、次の投資を呼び込んで地域が活性化する好循環も期待される。

3月28日付日経新聞、「かぼちゃの馬車」債務物件、米ファンドが取得という記事。米投資ファンドのローンスターはシェアアパート事業に参入。債務者の所有物件約1200棟(1棟当たり融資額約1億円)を総額700億円強で取得。700億円÷1200億円=58%。約6掛けで購入。さすが昔「ハゲタカファンド」と言われ、安く買いリターンを得る。

一般人では、東京都心および郊外では多くのリターンは望めない。



一口メモ
知識

自然体

无妄(むぼう)は元(おお)いに亨(とお)り貞(ただ)しきに利(よ)ろし。それ正(せい)にあらざるときは咎(わざわい)あり。

「无妄(むぼう)」の「无」は「無」の古字。「妄」は妄(みだ)り、望み。つまり、みだりではなく、また望みも欲もない。そこから「无妄(むぼう)」には自然体・無作為、流れのままという意味がある。

人為的なことはすべて「咎(わざわい)」禍であり、それは「无妄(むぼう)の正」にあたらぬ。

天雷无妄(てんらいむぼう)の卦(か)が教えているのは、よけいなことをしなくても、人間は自然に養われるということである。

「易经一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

